

企業（ユーザー）から見た関西実験動物研究会

山添 裕之

住友化学（株）生物環境科学研究所

関西実験動物研究会は、言うまでもなく、実験動物の研究会であり、リソースや最新の動物実験の動向を知る上で有効です。地方の研究会という側面もありますが、それだけに終わらない面もあります。僭越ですが、ご指名を受けましたので、その魅力をご紹介しますと思います。

テーマに制限がなく、時事問題も扱う。決して日本実験動物学会の地方版ではない。そのような集団が関西実験動物研究会ではないかと思えます。

関西実験動物研究会は、全国的にその分野の著名な先生方の講演が聞けるにもかかわらず、一般個人年会費 3000 円で、かつ、年 4 回も開催されています。しかも、取り扱うテーマは腫瘍・神経・内分泌・発生・遺伝など制限がありません。動物種も、マウス、ラット、ウサギ、イヌ、サル類などに限定されていません。「気軽」に、「広角的な視点」で、勉強する場を提供いただいていると言えます。

研究者による研究成果だけでなく、動物生産業者や飼育器材業者などのセールスの時間帯・維持会員ニュースが毎回設けられており、新たに導入された動物の系統や器材の情報も得ることができる点でも大いに助かっています。研究者から動物実験施設の管理者まで様々な人物が参加できる内容になっています。

関西実験動物研究会は日本実験動物学会に似ているようですが、活気と言う点では関西実験動物研究会のほうが勝っているようにさえ思えます。京大・阪大・神戸大などの有力大学が多いことや製薬会社が多かったことなど土地柄・風土あるいは参加者の雰囲気こそうさせるのかもしれませんが。フロアからの質問が鋭い面白いという点もユニークだと思います。

講演者は在京阪神に限らず、海外からのこともあります。関西実験動物研究会の幹事・評議員からの紹介で来られるのですが、そのまま研究会の会員になられる方も少なくありません。この研究会では、北は北海道から、関東、九州などから会員が集まるので、「関西」の定義は「関八州/関東より西」だと勘違いしてしまいそうです。

そんな魅力あふれる研究会も早 120 回。これからもこの勢いが継続できること切に望むところです。